

表

裏



おはよう



ごめんなさい



いただきます



ごちそうさまでした

◇ 指導方法

机の上にカードを並べ、教師がサインや身振りを加えながら、あいさつの言葉を言う。児童がそれを見たり、聞いたりして、教師の動きを模倣したり、言われたカードを選んだりする。また、教師の「これは何？」の問いに対し、絵を見て、自分から言葉を出したり、サインを出したりする。

文字と言葉を対応させるため、声を出しながら、裏面の文字を一緒に指で追う。

◇ 指導のねらい

繰り返し学習することで、それぞれの場面にあったあいさつの言葉を自分から出すようになることをねらう。

◇ 指導の評価

どんな子どもに対して、どんな効果があったか

内言語はたくさんあるが、日常生活において言葉が出にくい子どもに対し、このカードを使った学習を繰り返し行った。

はじめのうちは、教師がサインを示しながら言葉を言い、言った言葉と絵カードのマッチングを行った。サインを見て、状況が分かり、カードが選べるようになった。次にサインなしで言葉だけを聞いてカードを選ぶ学習を行った。繰り返すことで言葉を聞くだけで場面が分かり、カードが選べるようになった。

カードを選ぶ学習と同時に、カードの表の絵と裏の文字を対応させたり、声を出してあいさつの言葉を言ったりする学習を行ってきた。5月から学習を続けたところ、絵を見て自分からあいさつの言葉を出することができるようになってきた。文字を見て、言葉を言う段階には未だ至っていないが、今後も学習を継続していく。

宿泊学習の日程表で、この図の一部を使用したところ、活動の意味が分かり、見通しを持って活動に参加することができた。

まだ、自分から言葉を出すという場面は少ないが、このような絵カードをコミュニケーションの手段として活用していくことで、相手に伝えたいという気持ちや伝わるとうれしいという経験を積み重ねていきたい。